

まえがき

本書を執筆するにあたり、頭に思い浮かんだのは「英語論文作成法」という演習クラスです。この演習クラスは、英文学科3年生を対象としており、英語で10ページ以内の論文を執筆することを学ぶクラスで、授業担当者は学生に英語で論証することを教えなければいけません。

筆者はこの演習ゼミを2年間担当しました。学生たちは自ら研究テーマを見つけ、先行研究、第一次資料（新聞・雑誌記事）を集め、四苦八苦しつつも英語で上手にレポートを作成していました。しかし、論文ではありませんでした。

筆者の演習ゼミには、時事問題に興味がある学生が多く、先攻研究がほとんどないテーマばかりでした。議論が重ねられてきたテーマであれば、先行研究が多くあり、論文の方向性を決める際の参考になります。しかし時事問題に関しては、それに関する先行研究が少ないことが多いです。その結果、学生たちは、新聞や雑誌記事だけを頼りに研究を進め、論文の中に「argument（論旨、主張）」がなく、叙事的なレポートに仕上がっていました。

筆者も未だに苦労するのがargumentのある論文を書くことです。ただ単に事実を叙述するのではなく、事実を踏まえた上で新しい視点を論証するには、論理的に考える力だけでなく、さまざまな理論的枠組みを知っていることが肝要です。ある事象を既存の理論・概念に照らし合わせ、類似点と相違点を見いだすことによって、自分なりの新たな視点を築くことができます。

その時、イリノイ大学大学院でティーチング・アシスタントとして教えた「社会学入門（Introduction to Sociology）」での経験を思い出しました。19世紀後半に考えられた理論を取り上げながらも、これらの理論が2000年代のアメリカ社会にどのように当てはまるか、また時代と共に何が変わり、その事実によって理論の枠組みがどのように再構築されるかを教えることで、筆者自身も理論を用いて事象を検証し分析するというプロセスを学んだと思います。

少しでも、現代アメリカ社会を社会学的に考察する上で役に立てればと思い執筆しました。本書では、幅広い内容をカバーするように努力しましたが、自分の専門分野との兼ね合いもあり、取り上げた題材には偏りがあります。各1章を90分授業で1～2回で教えることを想定して書き上げました。各章の構成は前半を社会（学）理論の概念、後半に事例を取り上げ、前半で取り上げた概念との関連性が見えるようにしました。

前半部分の Sociological Concepts には、可能な限り文献からの引用を多く入れました。社会（学）理論の著書は、原著を翻訳したものが多いためか、難解な日本語で書かれており、理解するのが難しいため、入門書では敬遠される傾向があります。ところが、理論の概要だけを読むよりも、理論家が実際に書いた文章を読んだ方が、自分の中にさまざまな疑問がわきだし、新たなアイデアを思いつくものです。

さらに、授業資料を作成する際の参考になればと思い、アメリカでフィールド調査をした時に撮影した写真や映像で公開可能なものは、YouTube (<http://www.youtube.com/channel/UCaYi4J28peX1RHeLXAypIQg/videos>) に随時アップロードします。ご覧になりたい方々はぜひアクセスしてください。

筆者は、日本女子大学大学院に在籍していた時（1996-1998）に「同性婚・セクシュアリティ・アメリカの家族」を、シカゴ大学大学院に在籍していた時（1999-2000）は「グローバル都市におけるアメリカ・フィリピン間のケア労働力移動」を、イリノイ大学大学院アーバナ・シャンペーン校（2001-2008）に在籍していた時には「移住仲介者（migration intermediaries）とトランスナショナリズム」「非営利組織と不法移民労働者（主に男性路上労働者）の関係性」について研究していました。現在は「不用物の社会学（sociology of waste）」に興味があります。

日本女子大学大学院時代には島田法子先生、シカゴ大学大学院時代にはサスキア・サッセン（Saskia Sassen）先生、イリノイ大学大学院アーバナ・シャンペーン校時代にはヤン・ネーデルフィン・ピータシェ（Jan Nederveen Pieterse）先生に主査としてご指導いただきました。3人の先生から学んだこ

まえがき 3

とをベースに、本書のようにまとめることができました。この場を借りて、お礼申し上げます

2013年10月吉日

山元 里美

社会学で解く現代アメリカ

目 次

まえがき	1
第1章 K. マルクス - 資本主義社会と労働	9
Sociological Concepts 疎外された労働	9
Sociological Application 食肉処理場で働く移民労働者たち	23
第2章 E. デュルケーム - 個人と社会連帯	31
Sociological Concepts 機械的連帯と有機的連帯	31
Sociological Application 全米で人口移動率が最も低い町	45
第3章 M. ウェーバー - 社会学の根本概念と方法論	56
Sociological Concepts 社会的行為の合理性と非合理性	56
Sociological Application 障がい児を産みたい心境とは	67
第4章 E. ゴッフマン - 社会が作る多元的自己	73
Sociological Concepts ステイグマ	73
Sociological Application 本当にアジア系アメリカ人は理系志向?	90
第5章 A.R. ホックシールド - 感情労働	99
Sociological Concepts 管理される心	99
Sociological Application 2008年ニューハンプシャー州予備選挙で ヒラリー・クリントン氏が見せた涙の反響	110
第6章 M. フーコー - セクシュアリティ理論	117
Sociological Concepts ^{バイオ・パワー} 生 <small>の</small> 力	117
Sociological Application 伝統的家族観 vs. 同性婚	123

第7章 M. ダグラス - 社会と不用物の関係	130
Sociological Concepts 汚れ・穢れとは	130
Sociological Application 廃棄魚種を食料品に	140
謝 辞	148

